子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル：

Association of Japanese cedar pollen sensitization in children with *Dermatophagoides pteronyssinus* sensitization and maternal sensitization: Insights from the Yamanashi Adjunct Study within the Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル：

子どものスギ花粉感作とヤケヒョウヒダニ感作および母親のスギ花粉感作との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査(JECS)山梨追加調査からの知見

ユニットセンター（UC）等名：甲信 UC（山梨）

サブユニットセンター（SUC）名：

発表雑誌名：Allergology International

年：2024　DOI：10.1016/j.alit.2024.11.002

筆頭著者名：島村　歩美

所属 UC 名：甲信ユニットセンター（山梨）

目的：

近年、日本人の子どもにおけるアレルギー性鼻炎の有病率は著しく増加している。アレルギー性鼻炎の発症には多重感作や遺伝的要因が関連しており、さらに多重感作児は親がアレルギー性鼻炎に罹患している可能性が高い。本研究では、子どものスギ花粉感作とヤケヒョウヒダニ感作および母親のスギ花粉感作との関連を検討した。

方法：

本研究は、スギ花粉感作陽性率が最も高い山梨における「子どもの健康と環境に関する全国調査」の追加調査としておこなわれた。対象は甲信ユニットセンターの 8 歳児総合健診(2019～2022 年)に参加した母子 1469 組である。子どものスギ花粉感作の有無を目的変数、母親のスギ花粉感作と子どものヤケヒョウヒダニ感作を説明変数、子どもの性別と BMI（Body Mass Index：体格指数）、母親の年齢、受診年のスギ花粉ばく露を調整変数として、ロジスティック回帰モデルを作成した。

結果：

ヤケヒョウヒダニ感作が陽性の子どもは、スギ花粉感作も陽性である可能性が高かった(調整オッズ比 6.58、95%信頼区間 5.10-8.48、P＜0.001）。ヤケヒョウヒダニ感作陽性の子どもにおいては、母親がスギ花粉感作であると、子どものスギ花粉感作も陽性である可能性が高かった(調整オッズ比 1.77、95%信頼区間 1.16-2.71、P＝0.008）。

考察（研究の限界を含める）：

ダニ感作はバリア機能の低下や皮膚・気道過敏性を悪化させ、スギ花粉を含む他の抗原に対する感作を促進する可能性がある。また、親のアレルギー性鼻炎の既往は子どもの感作や発症のリスクを高めるため、母親世代における最近のスギ花粉感作率の増加は、子世代におけるスギ花粉感作率の増加と関連している可能性がある。さらに本研究の結果からは、幼児期のヤケヒョウヒダニ感作が、母親から受け継いだいくつかのスギ花粉感作危険因子を修飾し、その危険性を高める可能性が考えられる。この研究の限界は、スギ花粉とヤケヒョウヒダニ以外のアレルゲンについての詳細な評価がないことと、個々のスギ花粉総ばく露量の推定が困難なことである。

結論：

子どものスギ花粉感作はヤケヒョウヒダニ感作と関連している。さらにヤケヒョウヒダニ感作陽性の子どもにおいては、スギ花粉感作に母子関連がみられた。